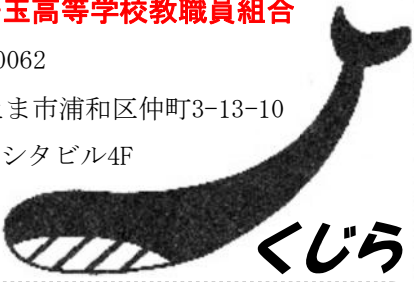



埼玉高教組
ニュース

発行 埼玉高等学校教職員組合
〒330-0062
さいたま市浦和区仲町3-13-10
ヤギンタビル4F


くじら

NO. 656

教育復興に向けて支援の輪を広げよう！

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikoitu@maple.ocn.ne.jp

2月16日 第3回教育局確定交渉 働き方改革の本気度を示せ！

◆具体的な業務削減を示せ

私たちは例えば、「土曜日授業をやめる」、「入試の採点をなくす」ような目に見える要求を掲げたが、具体的な業務削減の回答は何もなかった。県教委が掲げる目標は2024(令和6年)度末までに、時間外勤務について月45時間以上、年間360時間以上の人を100%にする、というものである。この目標は一日2時間の残業を前提とした数字であるが、この目標実現さえ、私たちには疑問である。

土曜日授業についても実施校では形式的に同一週内に振替が組まれていても実質的には回復されていない。さらに7時間目の実施・週31時間以上の授業実施についても県教委は教育課程編成権は学校にあるとして、歯止めには消極的である。本気で改革をするつもりならば大なたを振るう一刀両断で「土曜日授業は認めない」ときっぱり言い出せば私たちは拍手喝采するだろう。学校まかせで具体が見えなければ「仕事が減った、楽になった」とは誰も思わない。

今後とも「土曜日授業」を含めて協議を続けることを確認したが、私たちは業務負担軽減の具体を実現すべく、継続して県教委と協議していく。

◆義務制と高校の課題は違う

時間外勤務の調査結果を見ると、小学校＞中学校＞高校の順で、小中・義務制の労働条件が厳しい。小学校では時間割のほぼすべてが授業だから、児童が帰る前には教材研究等の仕事は出来ない。高校は持ち時数「16.5」の縛りがあるので「空き時

間」がある。つまりは小学校の働き方改革はいの一番に持ち時間の縮減である。

一方、高校の時間外の大半は部活動である。4時頃から始まる部活が5時の勤務時間内に終わることはまずない。特に運動部は6時7時はザラで、8時9時までの部活動もある。県のガイドラインは1日2時間だが、守られていないのが実態だろう。否、守られたとしても、2時間やれば6時までで超過勤務1時間である。ガイドラインでさえ超過勤務が前提となっている。

◆組合はチェック機能を担っている

働き方改革を進めるための県教委各課との協議はともかく、働き方改革に逆行する動きは阻止しなければならない。入試のやり方を変えとか、新しい施策の研究指定校の選定など、現場の負担が増える動きに対してはチェックを続けたい。同時に現場からの情報は欠かせない。校長や企画委員会の「怪しい話」はぜひとも組合本部にご報告いただきたい。

なお働き方改革には予算も必要と思うが、県教委の考える働き方改革は「DX」に傾きがちであり、県教委から説明を受けても私たちはその先に具体的な展望を現段階で見いだせない。日教組から全国の先進的な取り組みを聞きながら、県教委にも具体的に提案し、働き方改革を実現していくために取り組まなければならない、と交渉を終えて改めて思った。皆さん、これを減らしてはどうか？などアイデアがあったら、遠慮なく本部までお知らせを！

証言から知る 関東大震災・朝鮮人虐殺事件

「建国記念の日を考える集会」として2月11日に行われた標記の集会、第1部は当時虐殺された朝鮮人の遺骨を掘り起こそうと墨田区八広の荒川土堤での作業や見学する人々の様子、虐殺を生き延びた在日朝鮮人の人々の証言からなるドキュメンタリー『隠された爪痕』(1983呉充功監督58分)の視聴、第2部は掘り起こし作業に学生として参加し、その後この問題を追いつける西崎雅夫氏(元中学校教諭、一般社団法人ほうせんか理事)の講演であった。

『隠された爪痕』は、結局、遺骨は発掘されなかったが、その合間になされる証言が凄惨極まりないものばかりだった。生きながらに焼かれた、命乞いをしているにも関わらず竹槍を腹にぶっ刺した、猟銃、日本刀、斧、そして物を持たない者は素手で殴り殺したなど枚挙にいとまがない。今、ネットを見れば、民族紛争のなか、銃武装した黒覆面の男集団が女性を後ろ手にしばり、脳天を斧でかち割り、首を切り落とし、それだけでは飽き足らず手足を切断する映

像が挙げられているが、何のことはない同じ事が1923(大正12)年に行われていたのだ。

第2部の西崎氏の講演では、様々な証言が紹介された。「朝鮮人が井戸に毒を入れた」という流言飛語が虐殺の原因となったと言われるが、軍人や憲兵、警察官が震災後の混乱の中、馬上から上記の事を告げに来た、憲兵の中には、朝鮮人を見たら殺せと命令する者までいた。デマは、自然におこったのではなく官憲によって流されたのだ。朝鮮人に間違われて殺された日本人もいた。(俳優の千田是也は殺されそうになった)群衆に追われた朝鮮人を署にかくまって救った警察署長もいたが、多くは非難してくる朝鮮人を門前払いしたり一時かくまっても追い出したりした者が多かった。

当時どれだけの朝鮮人、日本人が殺されたのか、軍隊や警察、自警団による虐殺の実相は？正確なことはわからない。国が調べていないからである。過去に盲目となる国はいつか滅びる。(R. H)

大里児玉支部旗開き！～組合未加入者・青年部員も複数参加！～

2月11日(土)、前日の降雪状況が心配されたが、東松山で組合未加入者・青年部員を交えた大里児玉支部の旗開きを開催することができた。今回共有された情報の中で、とある青年部員の学校での現状を報告しようと思う。

A高校で勤務しているとある青年部の教諭の例。平日の勤務、土曜の部活指導、日曜の資格検定試験の監督業務で連続して勤務した週が複数続いたという。検定試験前も補習に追われるなかで、職員、生徒ともに心の余裕がなく、教員は目の前の生徒の気持ちを想像せず、やらないからできないと決めつける。それに置いていかれる生徒たち。その様子を見ようともせず、時代にあった指導、生徒の実情を考えずに進んでいく学校生活。青年部の教諭はA高校に対して危機感を持ちながらも、改めて教員の心の余裕のなさをもたらす教育への影響の恐ろしさを感じたと話していた。

これは勤務形態だけが問題なのではない。参加してくれた別の青年部員はこのようにも話している。「先輩の先生方の指導の厳しさに、これは間違っ

ているのではないかと思うことは多々ありつつも、人のことを気にしている暇がないくらい多忙だ。我々教員が思考力を奪われている感じがしている」。

平日は教科指導に生徒指導、疲弊して迎えた休日には部活指導が待っており、自分のための時間を作るままならない。しかも周囲に愚痴をこぼすことでしか苦しみを和らげることができず、またその中には愚痴をこぼすことさえできず、一人でその苦しみを抱えている人もいるのではないか、ということは想像に難くない。

この現状を根底の部分から変えることができるのは、組合による活動である。しかし、余裕のない日々の中、組合活動を組込むことは、現実的ではないと考えてしまう人もいるだろう。それでも、県の当局者あるいは管理職に対して物を申し、少しでも今を変えられることができるのは、やはり組合である。私たち自身のことは私たち自身で守るしかない、と今回の様々な話を聞いて痛感した。まずは自分たちのために、ひいてはその大人を見ている子どもたちのために、可能な限り組合の活動に取り組みたいと思う。